

太った負債者：
時間割引、そのアノマリー、および BMI

2008 年 8 月

池田新介 大阪大学社会経済研究所
康明逸 大阪大学社会経済研究所
大竹文雄 大阪大学社会経済研究所

要旨

日本のアンケートサーベイデータを用いて、負債者が非負債者よりも肥満傾向が強いことをまず示し、負債行動におけるのと同様に、体格の個人差が時間割引とそのアノマリーの個人差に関連しているという仮説を検証する。所得や人口統計変数をコントロールしたうえで、時間割引が体格（BMI、肥満確率、やせ確率）に対して、(i) 時間割引率の水準で測られるせつかさの程度、(ii) 直近の選択に対する時間割引率が遠い将来の選択のそれよりも高くなる双曲割引、(iii) 将来の損失は利益の場合ほど割り引かれない符号効果、という 3 つの経路で影響することが示される。体格はまた年齢、1 人当たり家計所得、労働時間の非単調に相関する。その結果たとえば、所得格差の悪化は BMI の社会平均を引き上げることになる。

キーワード：BMI、肥満、やせ、時間割引率、符号効果、双曲割引